

郷蔵米通信

2021年9月 郷蔵米生産組合

■実りの秋

今年の天気は猛暑かと思えば、まさかの長雨と日照不足。新聞では今年の稲作は『やや不良』とのことでした。佐見地区でも出穂時期にほとんど太陽が出なかった期間があり、その後も秋雨前線の影響を早くから受けて、いもち病、もん枯れ病と相次ぎ発生しました。収穫量はもちろんのこと、稲刈りでの田んぼ状況など不安要素が尽きません。

例年に無い気象条件、また新型コロナウイルスの拡大でも収束が見えず、私たちの忍耐力の試される日々が続いています。この状況下では、収穫祭も厳しいと言わざるを得ないでしょう。

それでも生産者はいつものように作業をこなし、みよりの秋を迎えています。

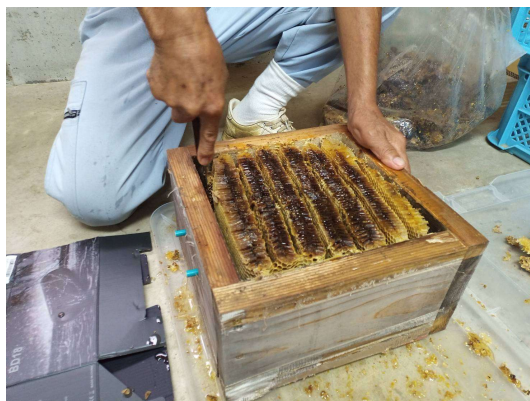
10月上旬には刈取も一段落し、全体の収穫量もわかる予定です。



■ニホンミツバチのその後

いよいよ採蜜の時期とになりました。ミツバチも長雨とオオスズメバチの大発生で過酷な環境の下でしたが、1巣に何万匹もいるような大きな巣からは、蜜を少しだけおすそ分けしてもらいました。

写真は、採蜜時のもの。甘〜い蜜を頂きました。



■さつま鴨の働き

年始は鳥インフルで心配されていたアイガモ。今年は関西から迎え入れることになり、無事各生産者のたんぼで活躍してくれました。昨年の合鴨とは種類が異なり、『さつま鴨』という、小ぶりで一見弱々しく見える合鴨ではありましたが、働き方は抜群で、評判も上々でした。よく動き、田をかき混ぜ、雑草をキレイにしてくれました。思わぬ怪我の功名といったところでしょうか。いまはたつぷりとエサをもらって、つかの間の休暇を過ごしているはずです。

【追伸】郷蔵米生産組合の発足当時から、私たちに励まし支えて頂いた、土こやしの代表「笠江秀子さん」がこの度定年退職されました。本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。生産者一同この場を借りて、お礼申し上げます。